

専門分野Ⅱ 30科目 38単位 1365時間

さまざまな健康レベルにある対象を理解し、多様なニーズを踏まえ、事例を通して、臨床実践能力を高めるための専門的知識・技術・態度について学ぶ。

〈成人看護学〉 Adult Nursing

成人期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴と健康の維持・増進および健康障害の回復に向けた援助の必要性を理解し、あらゆる健康レベルにある成人に看護を展開できる知識、技術、態度を習得する。

科目名	成人看護学概論 Introduction		講師名・実務経験	佐野 なつめ・専任教員
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	1年次2月			
評価方法	筆記試験(90%)、課題学習(10%)合計(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学①(医学書院) 国民衛生の動向 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方(メヂカルフレンド社) 看護診断ハンドブック(医学書院)			
講義のねらい	1. 社会的役割や責任を果たしながら、個々の信念、価値観を確立していく成人期にある人々について学ぶ。 2. 成人期の変化する発達課題を踏まえた看護の役割を学ぶ。また、成人期の身体的、精神的、社会的特徴と動向を知り、生活習慣病などへの保健活動が理解できる。			
学習目標	1. 社会的役割と責任、変化する発達課題を持つ成人各期の対象を理解できる。 2. 成人各期の健康問題の特徴や動向を理解できる。 3. 成人期に特有な生活習慣病とその現状、保健活動を理解できる。 4. 成人期の人々の特徴をとらえたセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。			
講義概要	1. 成人看護の対象の理解 1) 成人・大人とは 2) 主要な健康観 3) 成人の生活の特徴 4) 成長発達の特徴 5) 成人・大人の学びの特徴 2. 成人期にみられる健康障害の特徴 1) 生活習慣病の概念 2) 生活習慣病の現状と課題 3) 国民の健康づくり対策、ヘルスプロモーションの施策の変遷 4) 職業に関連する健康障害 3. 生活習慣病の予防と対策 4. 成人への看護に有用な理論モデル			
講義内容	1回目 成人の生活と健康 2回目 成人各期の身体的、精神的、社会的特徴 3回目 成人の生活(生活習慣・職業・ストレス)に関連する健康障害 4回目 学習の特徴と看護(アンドラゴジーモデル、エンパワメントモデル) 5回目 学習の特徴と看護(セルフマネジメントモデル) 6回目 学習の特徴と看護(事例検討、討論) 7回目 健康信念モデルという考え方 8回目 事例で考える健康信念モデル 9回目 病みの軌跡という考え方 10回目 病みの軌跡の看護への適用 11回目 事例で考える病みの軌跡 12回目 自己効力へのはたらきかえと看護 13回目 ヘルスプロモーションと看護 14回目 成人の主体的治療・療養行動への看護 ～ゴードンの機能的健康パターンを用いてアセスメントする～ 15回目 試験			

専門分野Ⅱ

科目名	成人臨床看護Ⅰ Clinical NursingⅠ		①呼吸器 ②循環器 ③血液	講師名・ 実務経験	① 榎本 英子 ② 竹田 美樹 ③ 小松 由美子
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内の(15)
		講義方法	講義		②1単位(30)の内の(8)
試験予定	2年次5月				③1単位(30)の内の(7)
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院) ②③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 (医学書院) ②③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[4] 血液・造血器 (医学書院)				
講義のねらい	1. 社会の現状を踏まえ、呼吸機能障害のある患者の特徴を学ぶ。 呼吸器疾患患者の検査、治療の際の看護、特徴的な症状への看護および残存機能を活用し、日常生活がスムーズに送れるようにするための援助方法を学ぶ。 2. 循環機能、造血機能が障害された患者が、日常生活をスムーズに送れるようにするための援助方法について学ぶ。				
学習目標	《呼吸器》 1. 呼吸器疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。 2. 呼吸器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 呼吸困難がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 《循環器・血液》 1. 循環器疾患および血液疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。 2. 循環器系、造血器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 循環器障害がある患者、血液疾患をもつ患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考える事ができる。				
講義概要	《呼吸器》 1. 呼吸器の構造とガス交換 2. 呼吸器系が障害された患者の特徴と看護 3. 呼吸器系の障害に有用な検査と治療とその看護 4. 疾患別看護(気管支喘息、肺がん、肺結核、慢性・急性呼吸不全、 5. 人工呼吸器装着患者の看護 《循環器・血液》 1. 循環器の構造と血液循環 2. 循環器系、造血器系が障害された患者の特徴とその看護 3. 循環器・造血器系の障害に特有な検査、治療とその看護 4. 疾患別看護 5. 急性白血病患者の看護過程の実際				
講義内容	《呼吸器》 1回目 呼吸疾患における看護師の役割、医療の動向と呼吸器疾患、症状別看護 2回目 症状別看護(胸痛、呼吸困難感)、検査別看護 3回目 治療、処置別、肺炎患者の看護 4回目 肺炎、結核、気管支喘息 5回目 肺がん患者の看護 6回目 COPD患者の看護、在宅酸素療法を受ける患者の看護 7回目 終末期看護、事例検討 8回目 試験(呼吸器・循環器・血液) 《循環器・血液》 1回目 循環器疾患をとりまく現状と看護師の役割、心臓の構造とはたらき 2回目 血液疾患の医療の動向、血液の生理と造血のしくみ、検査の看護 3回目 循環器疾患の症状とその病態生理、患者の看護 4回目 血液 主要症状のある患者の看護 5回目 血液疾患患者の看護 6回目 循環器疾患の検査と治療 7回目 循環器疾患と看護、行動変容に向けた中範囲理論(心臓リハビリテーション)				

専門分野Ⅱ

科目名	成人臨床看護Ⅱ Clinical Nursing Ⅱ		①消化器	講師名・ 実務経験	①岩井公佑
			②運動器		①齊藤知恵実 ②黒崎恵子
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数	各1単位(30)の内の(15)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次5月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5]消化器 (医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器 (医学書院)				
講義のねらい	1. 消化器系の機能が障害された場合の苦痛や生活行動への影響を理解し、慢性化しやすい消化器疾患患者に対してセルフケア能力を高めるための援助を学ぶ。 2. 運動機能の保持・回復、二次的障害や合併症の予防とともに、身体的拘束に伴う苦痛や生活様式に合わせた援助について学ぶ。また、障害を残したまま社会復帰をすることも多いため、精神的、社会的、経済的側面への援助を学ぶ。				
学習目標	<p>《消化器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 消化器疾患看護に必要な基礎知識を理解できる。 消化器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 消化器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 <p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 運動器疾患看護に必要な知識を理解できる。 運動器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 運動器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 運動器系が障害された患者の手術前・手術後の看護が理解できる。 				
講義概要	<p>《消化器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 肝臓に障害を抱えた患者の看護 消化器系が障害された患者の症状と看護 以下の内容をグループで調べ、発表してもらいます。 腸疾患(ストーマケア) <p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 運動器の基礎と特徴 運動器系が障害された患者の特徴と看護 運動器系が障害された患者の主な症状と看護 運動器系が障害に特有な検査、治療と看護(ギプス固定・牽引、安静・手術療法) 疾患別看護 <ol style="list-style-type: none"> 外傷(骨折、骨・関節損傷、神経損傷、筋・腱の損傷) 脊椎の疾患 四肢の疾患 				
講義内容	<p>《消化器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 肝炎、肝硬変患者の看護 2回目 消化器疾患、内視鏡検査、放射線治療の看護 3回目 消化器疾患、内視鏡検査、放射線治療の看護 4回目 消化器系の障害を持つ患者の症状と看護(グループワーク) 5回目 発表・意見交換 6回目 発表・意見交換・補足説明 7回目 ストーマの基礎知識、ストーマ増設に伴う看護(術前・術後) 8回目 ストーマケア演習(装具交換、事例検討) <p>《運動器》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 運動器に障害のある患者の看護 アセスメント、検査、評価 2回目 骨折の治療と看護 3回目 骨折の治療と看護 4回目 関節疾患の治療と看護 リハビリ 5回目 装具装置、牽引(演習) 6回目 装具装着、牽引(演習) 7回目 退院支援、国家試験過去問題 8回目 試験 (消化器・運動器) 				

専門分野Ⅱ					
科目名	成人臨床看護Ⅲ Clinical Nursing Ⅲ		①内分泌 ②腎・泌尿器 ③脳神経	講師名・ 実務経験	①福森 茂樹 ②福森 茂樹 ③森澤 百合
講義時期	2年前期	講義回数 講義方法	15回 講義	単位・時間数	各1単位(30)の内の(10)
試験予定	2年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6]内分泌・代謝 (医学書院) ①系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11]アレルギー-膠原病感染症(医学書院) ②系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8]腎・泌尿器 (医学書院) ③系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7]脳・神経 (医学書院)				
講義のねらい	1. 身体の全体の調和を保ち機能する上で重要な役割を担っている、内分泌、栄養・代謝、免疫機能を障害された対象が、生活の場に沿った自己管理を継続できるための看護を学ぶ。 2. 脳神経障害の急性期を中心とした、障害に伴う生命と身体の安全の確保、機能障害の予防と改善、不安や障害受容への精神的援助について学ぶ。 3. 腎・泌尿器では、無症状に潜行性に経過し慢性化しやすいという特性を踏まえて、疾患の理解と受容、長期にわたる自己管理への援助方法を学ぶ。				
学習目標	《内分泌・代謝・アレルギー》 1. 内分泌、代謝、自己免疫疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 1. 内分泌、代謝、自己免疫疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 3. 内分泌、代謝、自己免疫障害がある患者の苦痛や不安を理解し、看護を考えることができる。 《腎・泌尿器》 1. 腎・泌尿器疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 2. 腎・泌尿器系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 腎・泌尿器障害がある患者の苦痛や不安を理解し、軽減のための看護を考えることができる。 《脳神経》 1. 脳神経疾患看護に必要な基礎的知識を理解できる。 2. 脳神経系が障害された患者の検査・治療時の看護について理解できる。 3. 脳神経障害がある患者の苦痛や不安を理解し軽減のための看護を考えることができる				
講義概要	《内分泌・代謝・アレルギー》 1. 栄養・代謝機能が障害された患者の看護 2. 糖尿病患者の症状と看護 以下の内容をグループで調べ、発表する 3. 内分泌系が障害された患者の看護 ①食事療法 ②運動療法 ③内服治療 4. 免疫機能が障害された患者の看護 ④インスリン治療 ⑤フットケア ⑥低血糖発作時、シックデイの対応 《腎・泌尿器》 1. 腎・泌尿器系の基礎知識 2. 腎・泌尿器系が障害された患者の特徴 3. 腎・泌尿器系が障害された患者の主な症状と看護 4. 腎・泌尿器系が障害され内科的治療を受ける患者の看護 排尿異常、尿量異常、疼痛、浮腫 5. 腎・泌尿器系が障害され手術(腎、膀胱、前立腺)を受ける患者の看護 《脳神経》 1. 脳神経系の基礎知識 2. 脳神経系が障害された患者の特徴と看護 3. 脳神経系が障害された患者の主な症状と看護 4. 脳神経系の障害に特有な検査、治療とその看護 意識障害、知覚障害、言語障害、運動障害、排泄障害 5. 疾患別看護				
講義内容	①内分泌・代謝・アレルギー 1回目 栄養代謝障害のある患者の看護(肥満症、脂質異常症、痛風、メタボリックシンドローム) 2回目 自己免疫疾患患者の看護 内分泌系が障害された患者の看護(エリテマトーデス、関節リウマチ) 3回目 血糖自己測定器の測定の実際、糖尿病グループワーク 4回目 糖尿病グループワーク発表 5回目 試験(内分泌・代謝・アレルギー、腎・泌尿器、脳神経) 《腎・泌尿器》 1回目 腎・泌尿器疾患看護の基礎知識 2回目 腎・泌尿器領域における症状と看護 3回目 腎・泌尿器領域における検査と看護 4回目 内科的治療と受ける患者の看護 5回目 外科的治療と受ける患者の看護 《脳神経》 1回 成人臨床看護Ⅲ 脳神経 2回目 水頭症、瞳孔異常、頭蓋内圧亢進症状 3回目 脳梗塞、脳出血の病態、治療、看護 4回目 脳腫瘍、クモ膜下出血の治療と看護				

専門分野Ⅱ

科目名	成人臨床看護Ⅳ Clinical Nursing Ⅳ		①事例演習 回復期	講師名・ 実務経験	①川崎 寛子
			②事例演習 終末期		②榎本 英子
講義時期	①2年前期	講義回数	23回	単位・時間数	①1単位(45)の内の(30)
	②2年前期	講義方法	講義		②1単位(45)の内の(15)
試験予定	課題提出期限 ①2年次6月、②2年次10月				
評価方法	①②各レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価する。 ①(60%)、②(40%)の合計(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	①系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経(医学書院) ②系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器(医学書院)、成人看護学概論(医学書院) ①②看護診断ハンドブック(医学書院) 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方(メヂカルフレンド社)				
学習のねらい	成人期に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、回復期と終末期の看護過程を展開する力を養う。				
学習目標	<p>《回復期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の機能障害、回復過程にあわせ、日常生活動作の自立や生活の質向上への援助を考えることができる。 2. 回復期の脳梗塞患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 <p>《終末期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期看護を実施するうえで必要な基礎知識を理解できる。 2. 患者の全人的苦痛、患者や家族のニーズを考えることができる。 3. 終末期の肺がん患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 				
講義概要	<p>小グループで紙面上の事例を基に看護過程を展開する。</p> <p>《回復期》 脳梗塞の事例</p> <p>《終末期》 肺がんの事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和医療について(講義) 2. 肺がん患者の事例演習(グループワーク) 				
講義内容	<p>《回復期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 回復期とは 2回目 看護過程の展開:脳梗塞 3回目 事例演習の進め方、事例紹介 4回目 事例演習グループワーク:受け持ち患者記録:アセスメント① 5回目 事例演習グループワーク:受け持ち患者記録の修正:アセスメント② 6回目 事例演習グループワーク:アセスメント③ 7回目 事例演習グループワーク:アセスメント④、優先度判断 8回目 事例演習グループワーク:アセスメント発表会 9回目 事例演習グループワーク:看護計画立案① 10回目 事例演習グループワーク:看護計画立案② 11回目 事例演習グループワーク:看護計画発表会 12回目 事例演習グループワーク:看護経過記録について 13回目 事例演習グループワーク:看護経過記録の記載① 14回目 事例演習グループワーク:看護経過記録の記載② 15回目 事例演習グループワーク:看護要約の記載 <p>《終末期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 終末期とは 終末期にある患者と家族の特徴 2回目 がん性疼痛、とその看護 3回目 がん関連倦怠感、食欲不振、精神的苦痛、社会的苦痛とその看護 終末期にある患者の精神的苦痛、社会的苦痛とその看護 4回目 スピリチュアルケア、臨死期のケア 5回目 臨死期のケア、終末期の家族ケア 6回目 ロールプレイ 7回目 終末期における倫理的問題、看護師の悲嘆① 8回目 終末期における倫理的問題、看護師の悲嘆② 				

専門分野Ⅱ

科目名	成人臨床看護Ⅴ Clinical Nursing Ⅴ		①事例演習 急性期	講師名・ 実務経験	①佐野 なつめ																								
			②事例演習 慢性期		②福森 茂樹 山地 陽子																								
講義時期	①2年前期	講義回数	23回	単位・時間数	①1単位(45)の内の(30)																								
	②2年後期	講義方法	講義		②1単位(45)の内の(15)																								
試験予定	①2年次6月 ②2年次2月																												
評価方法	①②各レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価する。 ①(60%)、②(40%)の合計(100%)。60点以上を合格とする。																												
参考書	①専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器(医学書院) ①系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 ②専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝(医学書院) ①②看護診断ハンドブック(医学書院)																												
学習のねらい	成人期に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、急性期と慢性期の看護過程を展開する力を養う。																												
学習目標	<p>《急性期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期患者のアセスメントをするうえで必要な基礎知識を習得できる。 2. 全身麻酔で胃切除術を受ける患者の事例演習を通し、看護過程の展開を理解できる。 <p>《慢性期》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の病態生理や患者の心理と健康管理能力についてアセスメントすることができる。 2. 糖尿病患者の看護的問題を考え、援助内容を考えることができる。 																												
講義概要	<p>小グループで紙面上の事例を基に看護過程を展開する。</p> <p>《急性期》</p> <p>胃がんで胃切除術を受けた事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術をうける患者とその家族の心理 2. 手術侵襲と生体反応・術後合併症予防のための看護(講義) 3. 胃切除術患者の事例演習(グループワーク) <p>1)アセスメント、診断リスト作成と看護計画の立案 2)関連図を作成 3)術後のモデル人形を用いた観察の演習</p> <p>※事例演習は復習の教員が入り支援する</p> <p>《慢性期》</p> <p>初めて糖尿病と診断され教育入院した事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病患者の関連図を作成 2. 糖尿病患者(成人学習者)の特徴 3. 糖尿病患者への看護計画に基づいた実践 																												
講義内容	<p>《急性期》</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目 経過別看護とは何か 周手術期の対象と看護</td> <td>2回目 フィンクの危機モデルとは何か</td> </tr> <tr> <td>3回目 手術後の合併症と看護①</td> <td>4回目 手術後の合併症と看護②</td> </tr> <tr> <td>5回目 胃全摘出後の観察点と看護</td> <td>6回目 初期肺癌 事例の検討(関連図作成)</td> </tr> <tr> <td>7回目 MOOREの分類と手術侵襲における生体反応</td> <td>8回目 胃癌で手術を受ける対象の看護(事例紹介)</td> </tr> <tr> <td>9回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク①)</td> <td>10回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク②)</td> </tr> <tr> <td>11回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断、検討会)</td> <td>12回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護計画、内容検討、グループワーク)</td> </tr> <tr> <td>13回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)</td> <td>14回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)</td> </tr> <tr> <td>15回目 胃切除術後の患者モデルの観察と看護</td> <td></td> </tr> </table> <p>《慢性期》</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目 事例紹介 病態関連図作成</td> <td>2回目 事例紹介 病態関連図作成</td> </tr> <tr> <td>3回目 糖尿病患者の患者指導について</td> <td>4回目 関連図発表会 アセスメント</td> </tr> <tr> <td>5回目 関連図発表会 アセスメント</td> <td>6回目 看護計画立案</td> </tr> <tr> <td>7回目 看護実践 発表会①</td> <td>8回目 看護の実際 発表会②</td> </tr> </table>					1回目 経過別看護とは何か 周手術期の対象と看護	2回目 フィンクの危機モデルとは何か	3回目 手術後の合併症と看護①	4回目 手術後の合併症と看護②	5回目 胃全摘出後の観察点と看護	6回目 初期肺癌 事例の検討(関連図作成)	7回目 MOOREの分類と手術侵襲における生体反応	8回目 胃癌で手術を受ける対象の看護(事例紹介)	9回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク①)	10回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク②)	11回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断、検討会)	12回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護計画、内容検討、グループワーク)	13回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)	14回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)	15回目 胃切除術後の患者モデルの観察と看護		1回目 事例紹介 病態関連図作成	2回目 事例紹介 病態関連図作成	3回目 糖尿病患者の患者指導について	4回目 関連図発表会 アセスメント	5回目 関連図発表会 アセスメント	6回目 看護計画立案	7回目 看護実践 発表会①	8回目 看護の実際 発表会②
1回目 経過別看護とは何か 周手術期の対象と看護	2回目 フィンクの危機モデルとは何か																												
3回目 手術後の合併症と看護①	4回目 手術後の合併症と看護②																												
5回目 胃全摘出後の観察点と看護	6回目 初期肺癌 事例の検討(関連図作成)																												
7回目 MOOREの分類と手術侵襲における生体反応	8回目 胃癌で手術を受ける対象の看護(事例紹介)																												
9回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク①)	10回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (アセスメント、グループワーク②)																												
11回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断、検討会)	12回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護計画、内容検討、グループワーク)																												
13回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)	14回目 胃癌で手術を受ける対象の看護 (看護診断目標と看護計画内容検討会)																												
15回目 胃切除術後の患者モデルの観察と看護																													
1回目 事例紹介 病態関連図作成	2回目 事例紹介 病態関連図作成																												
3回目 糖尿病患者の患者指導について	4回目 関連図発表会 アセスメント																												
5回目 関連図発表会 アセスメント	6回目 看護計画立案																												
7回目 看護実践 発表会①	8回目 看護の実際 発表会②																												

専門分野Ⅱ 《精神看護学》 Psychiatric Nursing

現代社会が抱えるこころの問題に焦点をあて、看護の役割の重要性を認識し、こころの健康の維持増進のための援助、ストレス下にある人々や家族に対する援助について理解する。

科目名	精神看護学概論 Introduction			講師名・実務経験	市川 里美・臨床心理士
講義時期	1年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次5月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
講義のねらい	人間のこころのはたらき、こころの構造、こころの発達の基本知識を学び、精神障害者の理解、精神看護への活用へとつなげる。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間のこころのはたらきについてさまざまな視点で理解できる。 2. こころの発達を発達理論に基づいて理解できる。 3. 精神看護における患者と看護師関係について理解できる。 4. 精神看護で活用する技能について理解できる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. こころのはたらき <ol style="list-style-type: none"> 1) 人格と気質 2) 知能 3) 意識 4) 感情 5) 学習と行動 6) 心の理論 2. こころの構造 <ol style="list-style-type: none"> 1) フロイトの理論 2) 精神の機能 3) 防衛機制 3. こころの発達理論 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人格の発達 2) 発達理論 4. 精神看護で活用する技能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 観察 2) 記録 3) コミュニケーション 5. 精神障害者の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の理解 2) 患者－看護師関係 3) 患者－看護師関係の発展過程 				
講義内容	1回目	人間の心の諸活動①意識と認知機能②心の発達理論			
	2回目	心の仕組みと人格の発達①人格と気質 ②ライフサイクルとアイデンティティ			
	3回目	人間の心のしくみと人格の発達③無意識と精神分析と精神分析			
	4回目	人間の心のしくみと人格の発達④対象関係論			
	5回目	人間の心のしくみと人格の発達⑤ケアの人間関係			
	6回目	ケアの人間関係:ケアの方法、ケアをアセスメントする			
	7回目	ケアの人間関係:対応の難しい場面			
	7回目	試験			

専門分野Ⅱ

科目名	精神保健 Psychiatric Health			講師名・実務経験	市川 里美・臨床心理士
講義時期	1年後期	講義回数	8回	単位・時間数	1単位(15)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次6月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)				
講義のねらい	こころの健康におよぼすさまざまな要因を知り、精神の健康問題を持つ人の理解、こころの健康の回復、維持・増進のための援助について学ぶ。				
学習目標	1. 精神の健康を、精神と身体との関係などさまざまな視点より理解できる。 2. 環境がこころに与える影響を理解できる。 3. 患者への偏見をなくし、精神保健の考え方を理解できる。 4. 患者の生活の場を理解し、その援助のあり方を理解できる。 5. 患者を取り巻く家族、社会について考えることができる。				
講義概要	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康 2) 精神障害の理解 3) ストレスと健康 2. 地域精神保健福祉 1) 保健医療 2) 社会資源の活用 3) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 3. 精神保健活動 1) 家庭における精神保健 2) 学校における精神保健 3) 職場における精神保健 4. 災害時地域精神保健医療活動 1) 方針 2) 災害時の心理的反応 3) 活動				
講義内容	1回目 精神保健の考え方 A～B 2回目 精神保健の考え方 C～E、第7章 社会の中の精神障害 3回目 精神保健の考え方 ～地域における精神保健と精神看護 4回目 地域における精神保健と精神看護 C生活を支えるための社会資源 5回目 地域における精神保健と精神看護 C生活を支えるための社会資源 6回目 地域における精神保健と精神看護 E学校～F職場 7回目 地域における精神保健と精神看護 G災害、安全を守る 8回目 試験				

専門分野Ⅱ

科目名	精神臨床看護Ⅰ(障害と治療) Clinical NursingⅠ		講師名・ 実務経験	①黒沢 顕三・医師 ②宮子 あずさ・看護師
講義時期	2年全期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次12月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 (医学書院)			
講義のねらい	人間を統合的に見ながら精神症状、診断、治療について理解し、精神看護を行う上での基礎的な知識を学ぶ。			
学習目標	1. 精神医学と他の身体医学の共通点・相違点を理解できる。 2. 精神医学の基礎にある人間の見方を学ぶ。 3. 人間理解を踏まえて、精神症状を理解できる。 4. 精神疾患の診断、症状、成因、治療などを理解できる。			
講義概要	1. 精神医療の歴史 2. 精神疾患のとらえ方、精神障害の原因と分類 3. 精神疾患、精神症状 ①器質性精神障害 ②精神作用物質使用による精神・行動の障害 ③統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害 ④気分障害 ⑤神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害 ⑥生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群 ⑦成人の人格、行動の障害 ⑧精神遅滞 ⑨心理的発達の障害 ⑩小児期・青年期の行動、情緒の障害 4. 精神障害の治療法 ①精神療法 ②薬物療法 ③リハビリテーション療法 5. リエゾン精神医学 6. 地域における精神看護			
講義内容	1回目	精神疾患とはなにか、統合失調症の初歩		
	2回目	統合失調症の症状、診断、認知		
	3回目	統合失調症の経過、家庭教育		
	4回目	うつの基礎		
	5回目	うつの症状、治療		
	6回目	うつの症状、治療 (2回目)		
	7回目	パニック障害、脅迫性障害、PTSD		
	8回目	認知症の症状、診断、治療		
	9回目	アルコール依存症、摂食障害、パーソナリティ障害		
	10回目	向精神薬、精神保健福祉法		
	11回目	訪問看護を取り巻く社会と訪問看護の実際		
	12回目	退院促進と訪問看護 事例①		
	13回目	退院促進と訪問看護 事例②		
	14回目	精神科看護の生かし方		
	15回目	試験		

専門分野Ⅱ

科目名	精神臨床看護Ⅱ(看護) Clinical Nursing Ⅱ		講師名・ 実務経験	岡 光子・看護師
講義時期	2年期全期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次2月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開(医学書院)			
講義のねらい	1. 臨床で多くみられる精神障害患者に対する看護について学ぶ。 2. 精神疾患をもちながら社会復帰を目指す患者の問題と支援について考えることができる。			
学習目標	1. 精神科病棟の特徴を理解し、患者の入院生活をイメージ化できる。 2. 薬物療法を受けている患者の看護を理解できる。 3. 臨床上で多くみられる代表的疾患の看護を理解できる。 4. 代表的な事例の看護過程を理解できる。(情報収集、アセスメント、看護診断) 5. 精神科で働く看護職に求められる資質について理解できる。			
講義概要	1. 精神医療の歴史 2. 精神科病棟の特徴 3. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 4. セルフケアへの看護 5. 薬物療法への看護 6. 心理教育 7. 安全管理 8. 家族への看護 9. 精神科チーム医療と看護 10. 精神看護における倫理 11. 主な疾患の看護 ①統合失調症 ②気分障害			
講義内容	1回目	精神科の動向と看護		
	2回目	精神医療の歴史、法律・制度の変遷(グループワーク)		
	3回目	グループワーク 発表		
	4回目	入院とは		
	5回目	安全		
	6回目	精神、症状		
	7回目	統合失調症、看護		
	8回目	うつと認知行動療法		
	9回目	うつと認知行動療法		
	10回目	精神疾患をもつ対象とその家族への看護		
	11回目	薬物療法、ECTの看護		
	12回目	演習 全体像のとらえ方(グループワーク)		
	13回目	演習 全体像のとらえ方 (グループワーク)		
	14回目	看護の対応、入院について		
	15回目	試験		

専門分野Ⅱ 《老年看護学》 Geriatric Nursing

老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある老年者の健康上の問題をとらえ、看護を展開、実施できる基礎的知識、技術、態度を習得する。

科目名	老年看護学概論 Introduction		講師名・実務経験	古畑 聡子・専任教員
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	1年次2月			
評価方法	レポート20%・筆記試験80%、60点以上を合格とする			
参考書	①系統看護各講座専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)			
	②系統看護各講座専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院) 国民衛生の動向			
講義のねらい	高齢社会における老年期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、対象への保健活動のあり方について学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 高齢者とその家族の現状および支援について理解できる。 3. 高齢者の人権を尊重し、尊厳を守る大切さを理解できる。 4. 高齢者の「性」について考えることができる。 5. 高齢者とその家族にとっての「死」について考えを深めることができる。 6. 社会構造の変化における高齢者の保健医療福祉の現状と課題が理解できる。 			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老化とは、高齢者とは 2. 加齢に伴う身体的変化 3. 加齢に伴う精神的変化、社会的変化 4. 高齢者体験ーインスタントシニアを用いて 5. 高齢者と家族 6. 高齢者の人権と倫理問題 7. 高齢者の性 8. 高齢者の終末期 9. 高齢社会の保健医療福祉の現状 10. 高齢者保健医療福祉対策 			
講義内容	1回目	高齢者とは、老年期の概念、現状		
	2回目	インスタントシニアを用いての高齢者体験		
	3回目	加齢に伴う身体的変化(講義)		
	4回目	高齢者の実際(校外学習)		
	5回目	高齢に伴う心理・社会的変化、高齢者と家族		
	6回目	高齢に伴う身体的変化(グループワーク)		
	7回目	高齢に伴う身体的変化(グループワーク発表会)		
	8回目	高齢者の権利擁護、制度		
	9回目	高齢者の権利擁護、身体拘束		
	10回目	高齢者虐待、高齢者の性		
	11回目	高齢者にとっての死、エンド・オブ・ライフケア		
	12回目	高齢社会の医療		
	13回目	高齢者の医療制度		
	14回目	介護保険、地域包括ケア		
	15回目	試験		

専門分野Ⅱ

科目名	老年臨床看護Ⅰ(看護1) Clinical NursingⅠ		講師名・実務経験	古畑 聡子・専任教員
講義時期	2年前期	講義回数	8回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次6月			
評価方法	レポート20%・筆記試験80%、60点以上を合格とする			
参考書	①系統看護各講座専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)			
	②系統看護各講座専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			
講義のねらい	老年期看護の対象である高齢者を発達過程の視点から理解し、老年期患者への日常生活援助の意義とその方法が理解できる。また、老年期に特有な障害及び症状をもつ患者とその家族に対する看護が理解できる。			
学習目標	1. フレイルおよび疾患をもつ高齢疾患の特徴が理解できる。 2. 高齢者への援助の基本的考え方が理解できる。 3. 高齢者総合機能評価(CGA)をはじめとした、高齢者のアセスメントの意義が理解できる。 4. 高齢者の代表的な障害および症状の発生機序と要因、生活への影響、看護について理解できる。			
講義概要	1. 老年看護の基本的考え方と課題 1) 疾病を持つ高齢者の理解 2. 高齢者への援助の基本的考え方 1) 個別性の重視、自尊心の尊重 2) 予測的・予防的援助 3) 残存機能を生かした日常生活の自立 4) 専門職種との連携と社会資源の活用 5) 看護者の役割と健康各期の看護目標 3. 高齢者のアセスメント 1) 高齢者総合機能評価 2) 生活面のアセスメント 4. 高齢者に特有な障害及び症状と看護			
講義内容	1回目 高齢者への援助の基本的考え方 2回目 フレイル、老年期患者の特徴 3回目 高齢者のアセスメント 4回目 高齢者に特有な障害及び症状と看護(GW) 褥瘡、ロコモティブシンドローム(骨粗鬆症・骨折含む) 脱水・熱中症、排泄障害、かゆみ、うつ・せん妄、不眠 5回目 高齢者に特有な障害及び症状と看護(GW) 6回目 高齢者に特有な障害及び症状と看護(GW発表) 7回目 高齢者に特有な障害及び症状と看護(GW発表) 事故予防と救急への対応 8回目 試験			

専門分野Ⅱ

科目名	老年臨床看護Ⅱ(リハビリ) Clinical NursingⅡ		講師名・実務経験	星野 由美・看護師
講義時期	2年後期	講義回数	8回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次12月			
評価方法	筆記試験100%、60点以上を合格とする			
参考書	系統看護各講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)			
講義のねらい	何らかの疾病により生活行動に障害をもった対象に焦点をあて、リハビリテーションにおける看護の役割と援助方法を学ぶ。			
学習目標	<p>1. 機能障害が及ぼす身体的・精神的・社会的特性を理解し、身体機能維持・回復を促すための看護援助について理解できる。</p> <p>2. 機能障害の程度に応じた安全に配慮して、日常生活を再構築するための援助方法を理解できる。</p>			
講義概要	<p>1. リハビリテーション看護とは</p> <p>①リハビリテーション看護の概念</p> <p>②リハビリテーション看護の機能</p> <p>③看護者として障害と向き合う態度</p> <p>④リハビリテーション看護の方法論</p> <p>セルフケアへの援助、 家族への援助</p> <p>2. 生活行動に対するリハビリテーション看護</p> <p>姿勢と移動、食事、更衣と整容、言語(コミュニケーション)</p> <p>3. 主な疾患、障害別リハビリテーションプログラム</p> <p>①脳血管障害 ②脊髄損傷 ③慢性関節リウマチ ④慢性閉塞性肺疾患</p> <p>⑤虚血性心疾患</p>			
講義内容	1回目	リハビリテーション各論の1		
	2回目	リハビリテーション各論の1	生活行動 アセスメント	
	3回目	リハビリテーション各論の1	看護 各論2	
	4回目	リハビリテーション	高次脳機能障害	
	5回目	リハビリテーション	運動器系、中枢神経系の障害	
	6回目	リハビリテーション	看護のポイント復習	
	7回目	リハビリテーション	看護、ビデオ、復習	
	8回目		試験	

専門分野Ⅱ

科目名	老年臨床看護Ⅲ Clinical Nursing Ⅲ		①看護2	講師名・実務経験	①古畑 聡子・専任教員 内川 由香・認定看護師 藤田 祥子・認定看護師
			②事例演習		②船木 智子・認定看護師
			③ゼミナール		③古畑 聡子・専任教員
講義時期	2年後期	講義回数	23回	単位・時間数	①1単位(45)時間の内(15)
		講義方法	講義		②1単位(45)時間の内(15)
					③1単位(45)時間の内(15)
試験予定	2年次1月				
評価方法	レポート・授業参加態度(90%)、筆記試験(10%)の合計(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	系統看護各講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)				
	系統看護各講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]運動器(医学書院)				
	看護診断ハンドブック(医学書院)				
学習のねらい	<p>1. 老年期に多くみられる代表的な疾患の事例を用いて、高齢者に特有な視点で急性期の看護過程を展開する力を養う。</p> <p>2. 老化、疾病により生じた諸問題から、高齢者の特徴をとらえた看護について学ぶ。</p> <p>3. 高齢者の保健医療福祉問題から興味あるテーマを選び、さまざまな学習方法を活用し、多角的視点から考える力を養う。</p>				
学習目標	<p>①看護2 1. 高齢者に特有の症状である、認知症、嚥下障害の病態、検査、診断、治療などの概要と看護を理解できる。</p> <p>②事例演習 1. 運動機能の低下や精神機能の低下など廃用症候群を予防するうえで必要な基礎知識を習得できる。</p> <p>急性期 2. 緊急入院をして手術を受ける老年期患者の看護展開が理解できる。</p> <p>③ゼミナール 1. 認知症高齢者のさまざまな保健医療福祉問題を多角的視点で考えることができる。</p> <p>2. グループ討議で他者の意見を聞き、自分の考えを述べるができる。</p>				
講義概要	<p>《看護》</p> <p>1. 高齢者に特有な障害及び症状と看護 1)認知症 2)嚥下障害</p> <p>2. 医療的援助を受ける高齢患者の看護</p> <p>1)入院生活を送る患者への看護 2)検査を受ける患者への看護</p> <p>3)薬物療法を受ける患者への看護 4)手術を受ける患者への看護</p> <p>《事例演習:急性期》 グループで紙面上の事例を基に看護過程を展開する。 変形性股関節症で人工骨頭全置換術の手術を受ける対象の事例</p> <p>《ゼミナール》</p> <p>1. 現代の高齢者が抱える保健医療福祉問題の中から、自分たちが興味あるテーマを選択する。</p> <p>2. グループで文献やインターネット、外部講演を通し現状を調べ、自分たちの考えを深める。</p> <p>3. グループ発表</p>				
講義内容	<p>《看護》</p> <p>1回目 入院生活を送る患者の看護 5回目 摂食嚥下障害看護</p> <p>2回目 検査、薬物療法、手術を受ける患者の看護 6回目 摂食嚥下障害看護</p> <p>3回目 認知症看護 基礎 7回目 摂食嚥下障害看護</p> <p>4回目 認知症看護、環境調整 8回目 試験</p> <p>《事例演習:急性期》</p> <p>1回目 変形性股関節症の看護 5回目 看護過程 グループワーク(看護計画、展開)</p> <p>2回目 変形性股関節症の看護 GW(アセスメン 6回目 看護過程 グループワーク(看護計画、展開)</p> <p>3回目 変形性股関節症の看護 看護過程 7回目 看護過程発表会</p> <p>4回目 看護過程発表会</p> <p>《ゼミナール》</p> <p>現代の認知症高齢者の保健医療福祉問題について、多角的視点で調査・研究し、自己の考えを深める。</p> <p>1回目 オリエンテーション 認知症高齢者の問題について、グループで調査・研究し、テーマの決定・まとめの計画を立てる</p> <p>2～6回目 グループワーク 7, 8回目 グループワーク 発表</p>				

専門分野Ⅱ 《小児看護学》 Pediatric Nursing

小児に対する理解を深め、成長発達段階、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に看護を展開できる基礎知識、技術、態度を習得する。また、小児の健やかな成長・発達を支える看護の役割について考える機会とする。

科目名	小児看護学概論 Introduction			講師名・実務経験	本田 里香・専任教員
講義時期	2年前期	講義回数	15回	単位・時間数	1単位(30)
		講義方法	講義		
試験予定	2年次6月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学〔1〕 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 国民衛生の動向				
講義のねらい	小児の特性と小児保健活動の概念を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対して援助を行うための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児の発達段階に応じた身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。 2. 小児各期の特徴をふまえた援助を理解できる。 3. 子どもの権利と擁護について考えることができる。 4. 子どもと家族、それらを取り巻く社会との関係を考えることができる。 5. 小児看護の役割、現代の小児医療の問題点について考えることができる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴と理念 2. 小児医療の変遷 3. 子どもの権利 4. 小児の成長と発達 5. 小児の栄養 6. 基本的生活習慣の獲得 7. 小児各期の特徴と看護 8. 家族の特徴と看護 9. 子どもと家族を取り巻く社会 10. 子どもが生活する社会の問題点 				
講義内容	1回目	小児看護の対象、小児看護の役割			
	2回目	子どもの権利と医療、看護場面の倫理、成長発達の原則			
	3回目	成長、発達(検査法)			
	4回目	成長、発達(形態的成長)			
	5回目	成長、発達(機能的発達)			
	6回目	グループワーク(小児に関わる諸問題)			
	7回目	グループワーク			
	8回目	小児の社会的発達			
	9回目	小児の栄養			
	10回目	小児の栄養			
	11回目	基本的生活習慣の獲得①			
	12回目	基本的生活習慣の獲得②			
	13回目	遊びと学習、予防接種と学校保健安全法			
	14回目	子どもと家族、子どもを取り巻く社会			
		※ 発表会を含めグループワークがあります。			
	15回目	試験			

専門分野Ⅱ

科目名	小児臨床看護Ⅰ(基礎知識) Clinical NursingⅠ		講師名・実務経験	瀧本 浩幸・医師																														
講義時期	2年前期	講義回数	15回	単位・時間数																														
		講義方法	講義																															
試験予定	2年次12月																																	
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。																																	
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院)																																	
講義のねらい	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期の健康障害とその経過の特徴を理解し、小児期の代表的な疾患とその病態生理を学び、看護過程の展開の基礎とする。 2. 小児に多い主な疾病の治療・検査について学ぶ。 																																	
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の正常な成長発達を理解できる。 2. 小児の健康支援、予防医学を理解できる。 3. 小児期特有の疾患とその治療、検査、看護を理解できる。 																																	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児科総論 小児の成長 2. 新生児疾患 3. 循環器疾患 川崎病 4. 栄養障害、消化器疾患、外科疾患 5. 感染症(感染症予防、予防接種を含む) 6. 呼吸器疾患 7. 膠原病・リウマチ性疾患、免疫疾患、アレルギー性疾患 8. 血液疾患、悪性新生物 9. 腎・泌尿器疾患 10. 成長障害、内分泌疾患 11. 代謝性障害、先天代謝異常 12. 出生前の小児科、遺伝性疾患、先天奇形 13. 神経・筋疾患、精神疾患 																																	
講義内容	<table border="0"> <tr><td>1回目</td><td>小児の成長・発達</td></tr> <tr><td>2回目</td><td>新生児疾患</td></tr> <tr><td>3回目</td><td>小児の心疾患</td></tr> <tr><td>4回目</td><td>小児の消化器疾患</td></tr> <tr><td>5回目</td><td>小児のウィルス感染症</td></tr> <tr><td>6回目</td><td>小児の細菌感染症</td></tr> <tr><td>7回目</td><td>小児の呼吸器疾患</td></tr> <tr><td>8回目</td><td>小児の免疫疾患</td></tr> <tr><td>9回目</td><td>小児の血液疾患</td></tr> <tr><td>10回目</td><td>小児の腎疾患</td></tr> <tr><td>11回目</td><td>小児の内分泌疾患</td></tr> <tr><td>12回目</td><td>小児の代謝性疾患</td></tr> <tr><td>13回目</td><td>出生前の小児科</td></tr> <tr><td>14回目</td><td>小児の神経疾患</td></tr> <tr><td>15回目</td><td>試験</td></tr> </table>				1回目	小児の成長・発達	2回目	新生児疾患	3回目	小児の心疾患	4回目	小児の消化器疾患	5回目	小児のウィルス感染症	6回目	小児の細菌感染症	7回目	小児の呼吸器疾患	8回目	小児の免疫疾患	9回目	小児の血液疾患	10回目	小児の腎疾患	11回目	小児の内分泌疾患	12回目	小児の代謝性疾患	13回目	出生前の小児科	14回目	小児の神経疾患	15回目	試験
1回目	小児の成長・発達																																	
2回目	新生児疾患																																	
3回目	小児の心疾患																																	
4回目	小児の消化器疾患																																	
5回目	小児のウィルス感染症																																	
6回目	小児の細菌感染症																																	
7回目	小児の呼吸器疾患																																	
8回目	小児の免疫疾患																																	
9回目	小児の血液疾患																																	
10回目	小児の腎疾患																																	
11回目	小児の内分泌疾患																																	
12回目	小児の代謝性疾患																																	
13回目	出生前の小児科																																	
14回目	小児の神経疾患																																	
15回目	試験																																	

専門分野Ⅱ

科目名	小児臨床看護Ⅱ(看護) Clinical NursingⅡ			講師名・実務経験	①網野 寛子・看護師 ②水島 禮子・看護師
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内(8)
		講義方法	講義		②1単位(30)の内(22)
試験予定	2年次2月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院)				
講義のねらい	小児とその家族にとって病気や入院が与える影響を理解し、さまざまな健康レベルにおける援助、小児特有の技術、小児各期の代表的な健康障害の看護、症状に対する看護について学ぶ。				
学習目標	1. 小児看護の対象である子どもと家族の看護について理解できる。 2. 小児期の代表的な疾患と先天性障害の特徴と看護について理解できる。 3. 小児看護特有の援助技術について理解できる。				
講義概要	1. 小児の形態的、生理的、心理的特徴 2. 小児の主要な症状に対する看護 3. 未熟児・低出生体重児の看護 4. 生活制限のある小児と家族の看護 5. 代表的な疾患をもつ小児の看護 6. 先天性障害のある小児の看護 7. 予後不良の小児の看護 8. 小児看護における特有な看護技術 ①身体測定 ②バイタルサインの測定(体温、脈拍、血圧) ③採尿 ④与薬(輸液管理含む) ⑤酸素療法(テント、マスク) ⑥吸入療法 ⑦洗腸				
講義内容	《小児看護学総論》 1回目 新生児・乳児の態形的・生理的・心理的特徴 2回目 幼児・学童・思春期の特徴と看護 3回目 病状を示す子どもの看護 4回目 未熟児NICUの看護 《小児看護学各論》 1回目 生活制限のある子どもと家族への看護 2回目 疾患と看護(循環器・川崎病) 3回目 疾患と看護(I型糖尿病) 4回目 疾患と看護(腎疾患、呼吸障害) 5回目 手術を受ける子どもの看護 6回目 悪性腫瘍の子どもの看護(白血病) 7回目 先天性障害のある子どもの看護 8回目 神経障害のある子どもの看護 9回目 検査や処置を受ける子どもの看護 10回目 バイタルサイン測定、身体計測 11回目 試験 ※ 技術では「赤ちゃん先生」を招いて、実際に触れ合い、測定や計測も行い理解を深めます。				

専門分野Ⅱ

科目名	小児臨床看護Ⅲ(事例演習) Clinical NursingⅢ		講師名・実務経験	本田 里香・専任教員
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次2月			
評価方法	レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価する。(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 (医学書院) 看護診断ハンドブック(医学書院) 看護学生のためのレポート&実習記録の書き方			
学習のねらい	小児に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、小児の成長発達段階および小児看護の特性を踏まえた看護過程について理解する。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患児の成長発達段階を踏まえ、健康障害のある患児の問題を明確にし、援助を考へることができる。 2. 気管支喘息患児の看護過程の展開を理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・症状の悪化を踏まえたアセスメントができる。 ・家族と患児への生活指導を理解できる。 			
講義概要	<p>小グループで、紙面上の事例を基に看護過程を展開する。</p> <p>事例演習 気管支喘息患児(幼児後期～学童期)の事例</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性期 2. 慢性期・回復期 			
講義内容	1回目	講義:小児看護アセスメントの視点、小児急性期看護		
	2回目	講義:発達段階の特徴、気管支喘息のある子どもの看護 グループワーク:小児のアセスメント(急性期) ①受け持ち患者記録 ②アセスメント(1)(2)		
	3回目	グループワーク:小児のアセスメント(急性期)		
	4回目	検討会:小児のアセスメント、看護診断		
	5回目	グループワーク:小児のアセスメント		
	6回目	個人:看護計画(子どもの安全)		
	7回目	講義・グループワーク:小児慢性期看護		
	8回目	グループワーク:慢性期看護経過記録 (看護診断修正及び優先度変更の検討)		
	9回目	グループワーク:慢性期看護計画(子どもと家族の自己管理)		
	10回目	検討会:看護診断・優先順位		
	11回目	講義:プレパレーション グループワーク:子どもと家族への指導 内容・方法検討		
	12回目	グループワーク:子どもと家族への指導 内容・方法検討・準備		
	13回目	グループワーク:子どもと家族への指導 内容・方法検討・準備		
	14回目	発表会、ロールプレイ:子どもと家族への指導		
	15回目	発表会、ロールプレイ:子どもと家族への指導		

専門分野 II 《母性看護学》 Obstetric Nursing

母性の概念とその特性を理解し、保健医療福祉における母性看護の基礎となる知識、技術、態度を習得する。生命を生み育てる母性、生命の継続や尊厳について考える機会とする。

科目名	母性看護学概論 Introduction		講師名・実務経験	酒井 礼子・専任教員
講義時期	1年後期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	1年次2月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	新体系看護学全書 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社) 国民衛生の動向			
講義のねらい	妊娠、分娩という役割を担う女性の健康について身体的・精神的・社会的側面から総合的に考え、母性看護の役割を学ぶ。			
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 母性の概念とその特性を理解できる。 生理的現象である妊娠・分娩という役割を担う女性の健康について身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 保健医療福祉における母性看護の役割を理解できる。 妊娠、分娩による女性の生理的変化や健康問題について理解できる。 			
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 母性・父性の概念と特性 母性看護の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ 母性看護と倫理 人間の性と生殖 女性のライフサイクル各期の特徴と発達課題、健康問題 リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題(グループワーク) 母子保健の意義と動向 母子保健施策 母性看護に関連する法規 妊娠・出産に関する基礎知識 妊娠による女性の生理的変化と健康問題(グループワーク) 			
講義内容	1回目	母性看護に関する概念		
	2回目	母性看護における倫理		
	3回目	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題(グループワーク)		
	4回目	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題(グループワーク)		
	5・6回目	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題(発表会)		
	7回目	母子保健の動向		
	8回目	母性看護に関する法規		
	9回目	妊娠・出産に関する基礎知識		
	10回目	妊娠により女性の生理的変化(グループワーク)		
	11回目	妊娠により女性の生理的変化(グループワーク)		
	12・13回目	妊娠により女性の生理的変化(発表会)		
	14回目	マイナートラブル		
	15回目	試験		

専門分野Ⅱ

科目名	母性臨床看護Ⅰ 基礎知識 Clinical Nursing I			講師名・実務経験	①設楽理恵子・医師 ②白井 正枝・看護師
講義時期	2年前期	講義回数	15回	単位・時間数	①1単位(30)の内(20)
		講義方法	講義		②1単位(30)の内(10)
試験予定	2年次12月				
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。				
参考書	新体系看護学全書 母性看護学② 妊婦、産婦、褥婦、新生児の看護(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器(医学書院)				
講義のねらい	妊娠・分娩・産褥と新生児の生理や経過を理解し、妊産褥婦と新生児の看護に必要な基礎的知識を学ぶ。また併せて女性生殖器の障害により出現する症状のメカニズムと検査・治療を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性一生殖に関するホルモン、月経周期について理解できる。 2. 正常妊娠の胎児発育と生理、妊娠期から産褥期の母体の生理的変化について理解できる。 3. 新生児の生理について理解できる。 4. ハイリスク妊娠、分娩と産褥、新生児の異常について理解できる。 5. 新生児の生理について理解できる。 				
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性一生殖に関するホルモン、月経周期について 2. 妊娠、分娩に関する解剖生理 3. 正常妊娠 ①妊娠の定義、過程、胎盤形成、染色体と遺伝 ②胎児の発育と生理 ③母体の生理的変化 4. 正常分娩 ①分娩の生理 ②分娩の三要素 ③分娩の機序 5. 正常産褥 産褥に起こる体の変化 6. 新生児の生理 7. 妊娠、分娩に関する診察、検査 8. 不妊治療、出生前診断 9. ハイリスク妊娠、異常妊娠 10. 異常分娩 ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常 ④胎児付属物の異常 ⑤分娩時合併症 11. 異常産 12. 新生児の異常 				
講義内容	<p>《妊娠・出産の生理・病態》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 妊娠の週数検診、正常妊娠、出生前診断 2回目 ハイリスク妊娠・異常妊娠① 3回目 ハイリスク妊娠・異常妊娠② 4回目 不妊症 5回目 正常分娩(1) 6回目 正常分娩(2)～分娩時の手技 7回目 分娩時の異常(1) 胎児 8回目 分娩時の異常(2) 母体 9回目 産褥期 10回目 復習、ふり返し、まとめ <p>《新生児の生理・病態》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回目 新生児の整理・新生児の異常(呼吸) 2回目 新生児の整理・新生児の異常(循環) 3回目 新生児の整理・新生児の異常(体温等) 4回目 新生児の整理・新生児の異常(その他) 5回目 試験 				

専門分野Ⅱ

科目名	母性臨床看護Ⅱ(看護) Clinical Nursing Ⅱ		講師名・実務経験	田川 智美・助産師
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数
		講義方法	講義	
試験予定	2年次2月			
評価方法	筆記試験(100%)。60点以上を合格とする。			
参考書	新体系看護学全書 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社)			
講義のねらい	対象が自身と新しい生命の健康管理が実践できるよう生活指導を中心とした看護について学習し、妊娠、産褥期の看護実践の基礎知識を学ぶ。			
学習目標	1. 妊娠期に必要な妊婦の健康管理と保健指導について理解できる。 2. 正常分娩の分娩期、産褥期の健康管理と保健指導について理解できる。 3. ハイリスク妊娠、異常分娩の褥婦の健康管理と保健指導について理解できる。			
講義概要	1. 妊娠期の看護 ①妊婦の看護 ②妊婦の健康管理(健康診査と保健指導) 2. 分娩期の看護 3. 産褥期の看護 4. ハイリスク及び異常な妊娠、分娩、産褥期の看護			
講義内容	1回目 妊娠期の看護 妊娠検診 2回目 妊娠各期の保健指導 マイナートラブルについて 3回目 母親役割 母乳ケア バースプラン 4回目 分娩期看護 I期 5回目 分娩期看護 I～II期 6回目 分娩期看護 III期 グループワーク 7回目 産褥期看護 8回目 産褥期看護 授乳 9回目 産褥期 家族計画 産後うつ 10回目 新生児① 11回目 新生児② 12回目 ハイリスク(妊娠) 13回目 ハイリスク(産褥) 14回目 ハイリスク(褥婦、新生児)) 15回目 試験			

専門分野Ⅱ

科目名	母性臨床看護Ⅲ Clinical Nursing Ⅲ		①技術 ②事例演習	講師名・実務経験	①田川 智美・助産師 ②酒井 礼子・専任教員
講義時期	2年後期	講義回数	15回	単位・時間数	各1単位(30)の内の(15)
		講義方法	講義・演習		
試験予定	①2年次2月 提出期日:②2年次2月				
評価方法	①筆記試験(50%)、②課題レポート(50%)、合計(100%)。60点以上を合格とする				
参考書	新体系看護学全書 母性看護学概論 ウィメンズヘルスと看護(メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護(メヂカルフレンド社)				
講義のねらい	①妊産褥婦と新生児の援助に必要な母性看護特有の知識・技術を理解して、母性看護が実践できる基礎技術を学ぶ。 ②正常経膈分娩の褥婦と新生児の事例を用いて、生理的变化の特徴をふまえ、看護過程を展開する力を養う。				
学習目標	<技術> 1. 母性看護に特徴的な観察の技術について理解し実践できる。 2. 分娩期の経過、必要な補助的動作や呼吸法を理解できる。 3. 産褥期の経過を理解し、褥婦の健康管理に必要な保健指導を実施できる。 4. 新生児の生理を理解し、バイタルサイン測定や沐浴を実施できる。 <事例演習> 1. 妊娠分娩期の経過をふまえ、現在の産褥期の状態を捉えることができる。 2. 褥婦と早期新生児の生理的变化の特徴をふまえ、ウェルネスの視点でアセスメントできる。 3. 褥婦と早期新生児に必要な援助を、ウェルネスの視点で考えることができる。				
講義概要	<技術> 1. 母性看護に特徴的な観察の技術 ①胎児心音の聴取 ②レオポルド触診法 ③腹囲・子宮底測定 2. 分娩期の看護(呼吸法) 3. バイタルサイン測定 4. 沐浴 5. 退院指導 ①子宮復古 ②乳房マッサージ ③授乳 ④産褥後の生活 ⑤産褥体操 ⑥栄養 ⑦乳房のトラブル <事例演習> 正常経膈分娩の事例を基に看護過程を展開する。 1. 褥婦 2. 早期新生児				
講義内容	<技術> 1・2回目 妊娠期看護技術(レオポルド、腹位測定 等) 3回目 新生児バイタルサイン測定、計測 4回目 褥婦の看護、胎盤計測 5回目 乳房の観察、授乳 6・7回目 沐浴実施 <事例演習> 1回目 正常経膈分娩 褥婦の事例(講義) 2回目 正常経膈分娩 褥婦の事例(グループワーク) 3回目 正常経膈分娩 褥婦の事例(発表) 4回目 正常経膈分娩 褥婦の事例(グループワーク) 5回目 正常経膈分娩 新生児の事例(グループワーク) 6回目 正常経膈分娩 新生児の事例(発表) 7回目 正常経膈分娩 新生児の事例(グループワーク) 8回目 まとめ				

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学実習Ⅰ			講師名・実務経験	古畑聡子・専任教員
実習時期	2年後期 ～3年全期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
		講義方法	実習		
実習方法	内科・回復期病棟にて患者を受け持ち、対象に応じた看護を展開する				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	ライフサイクルの最終段階の老年期の特徴、健康上の諸問題に対し、対象に応じた看護の実践能力を養う。				
実習目標	<p>不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ高齢な対象の残存機能を理解し、健康上の諸問題を理解できる。</p> <p>加齢現象や残存機能の程度に応じて対象や家族に対して、疾病や生活様式の変更の受容、自己管理能力の維持や拡大への援助ができる。</p> <p>人生の終焉を迎え、近い将来死が訪れるであろう対象と家族が、残された生命・生活・時間をその人としてより豊かに、より安寧に過ごせるように、また尊厳を持って死を迎えるためのよりよい準備ができるよう援助することができる。</p>				
実習内容	<p>1. 内科的疾患を持つ対象の必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化</p> <p>1) 加齢による機能低下や予備力の低下を踏まえて、疾病や障害による身体的影響を自覚症状、検査所見、診察所見から観察・分析する</p> <p>2) 対象を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響と、生活様式が疾病や障害に与える影響について観察・分析する</p> <p>3) 疾病や障害が対象や家族の社会的役割に与える影響について観察・分析する</p> <p>4) 対象の心理的反応や知識・認知力の程度、介護力から自己管理能力や健康管理能力を分析する</p> <p>5) 疾病が終末への受容段階や自己概念や価値に与える影響について観察・分析する</p> <p>6) 人生の終焉を迎える対象や対象を支える家族を観察・分析する</p> <p>2. 内科的疾患を持つ対象の健康上の問題に対する計画の立案</p> <p>1) 対象や家族の望む姿を明確にし、苦痛の緩和や合併症予防に向けた計画を立案する</p> <p>2) 対象のその人らしさや生活様式を考慮し、QOLの保持・向上へ向けた計画を立案する</p> <p>3) 家族の予期悲嘆や対象の孤独感などの生活背景に配慮した計画を立案する</p> <p>4) 社会資源の活用に着目した計画を立案する</p> <p>3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践</p> <p>1) 対象の苦痛の緩和、合併症予防、回復促進に向けた援助を行う</p> <p>2) 対象の認知力や自己管理能力、生活様式、家族の介護力を踏まえた教育を実践する</p> <p>3) 対象に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う</p> <p>4) 多職種と連携し、対象を支えるチームの一員として援助を行う</p> <p>4. 根拠をもった評価</p> <p>1) 対象の症状や心理状態の変化から看護を評価する</p> <p>2) 対象の日常生活動作や生活行動に着目し、発達段階を踏まえて対象の変化を評価する</p> <p>3) 対象とその家族の反応からニーズの充足度やQOLについて評価する</p> <p>4) 評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する</p> <p>5) 看護の実践と評価を要約して表現する</p> <p>5. 自主的・主体的学習、研究的態度</p> <p>1) 対象を尊重し、思いを寄せた関わりをする</p> <p>2) 対象に関心を寄せ、探求心を持って学習し自己の課題を明確化する</p> <p>3) リーダーシップ、メンバーシップを發揮する</p>				

専門分野Ⅱ

科目名	老年看護学実習Ⅱ			講師名・実務経験	岩井公佑・専任教員
講義時期	2年後期 ～3年全期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
		講義方法	実習		
実習方法	外科病棟にて老年期にある周手術期、もしくは急性症状を持つ患者を受け持ち、看護を展開する。原則として、術前・術後の看護を学習する。受け持ち患者の手術中の看護の見学をする。				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習のねらい	ライフサイクルの最終段階にある老年期の対象の特徴を理解し、健康上の諸問題に対し対象に応じた看護が実践できる能力を養う。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病状の変化が激しい時期にある対象に対し、防衛力が低下し、予備力の乏しい高齢者であることを踏まえて、全身状態の評価、生理的機能の恒常性の維持、症状悪化の防止、苦痛緩和、安楽への援助、二次障害、合併症、廃用症候群の予防的援助ができる。 2. 疾病や手術により危機的状況にある高齢者や家族の心理を理解し支援できる 				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急性症状の病態と現在の状態の観察と分析 <ol style="list-style-type: none"> 1) 加齢による機能低下をふまえ、身体的症状や治療が精神状態や日常生活に及ぼす影響から、起こりえる二次的障害の明確化 2. 急性期にある対象の健康上の問題に対する計画の立案 3. 術後の環境に対する調整 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後ベッドの作成と必要物品の準備 4. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期にある対象の全身状態の観察 2) 苦痛の緩和への援助 3) 急性症状に対する検査、処置に伴う援助 4) 生体機能を整えるための援助 5) 健康レベル及び身体機能、精神活動に応じた二次的障害や廃用症候群予防の援助 6) 急性期にある対象の自尊心に配慮し、対象の生活者である視点からの生活援助 7) 急性期にある対象の精神的安定を図るための援助 8) 廃用症候群、術後せん妄の予防のための援助 9) 術後の安全管理のための援助 10) ME機器の使用目的をふまえた使用中の観察と管理 5. 急性症状の病態や高齢者の回復過程をふまえた全身状態の評価 6. 急性期にある老年期の対象の家族の心理状態の分析と援助 				

専門分野Ⅱ

科目名	小児看護学実習			講師名・実務経験	本田里香・専任教員
講義時期	2年後期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
	～3年全期	講義方法	実習		
実習方法	1) 病院(病棟・外来) 受け持ち患児を通した看護過程の展開、見学 2) 重症心身障害児療育施設見学 3) 保育所 クラス活動参加(遊び・基本的生活習慣の支援)				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	小児の成長・発達過程の理解を深め、健全な人間形成のために必要な小児および家族に対する基礎的な看護実践能力(知識・態度・技術)を身につける。				
実習目標	1. 小児の成長発達段階・発達課題をライフサイクルからみて統合的に理解・評価し、適切な援助が実践できる。 2. 小児の成長発達段階に適した基本的生活習慣および有効な養育の方法を用い、基本的生活習慣の獲得、自立への援助ができる。 3. 小児と環境との相互作用について理解し、対象のおかれている環境を統合的に分析し、健康阻害因子の除去および健康の維持・増進のための環境提供ができる。 4. 現代の家族の機能に目を向け、小児にとっての家族の意義を考え、小児観・育児観を深めることができる。 5. 健康レベルに合わせた小児保健医療活動について理解を深め、家族や保護者、保育士、その他関連するスタッフとの連携を図り、組織的な活動の中で看護者としての役割を遂行できる。				
実習内容	1) 病院 (1) 病棟 ①健康障害をもつ小児に必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化 ②発達段階・健康状態に応じた小児および家族への看護実践 ③健康障害をもつ小児の看護を通した権利擁護 ④健康障害をもつ小児の看護を通した看護観の形成 (2) 外来 ①成長発達と健康状態の観察と評価 ②診療を受ける児と家族の理解と援助 ③母親や家族など保護者への援助 ④小児外来における管理 (3) NICU ①NICUの概要と看護の対象の把握 ②NICUにおける看護師および各職種の役割の把握 2) 重症心身障害児施設 ①重症心身障害児の生活の場と療育支援の把握 ②重症心身障害児の権利擁護 3) 保育所 ①成長発達段階の観察と評価による援助 ②基本的生活習慣の確立への援助 ③保育所の機能と役割の把握				

専門分野Ⅱ

科目名	母性看護学実習			講師名・実務経験	酒井礼子・専任教員
講義時期	2年後期 ～3年全期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
		講義方法	実習		
実習方法	1. 病棟実習:経膈分娩または帝王切開の褥婦と新生児を受け持ち、看護を実践する 2. 外来実習:外来における妊婦健診及び保健指導を見学する 3. 地域母子保健活動施設見学:地域における母子保健活動を見学する				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	リプロダクティブヘルス/ライツの考えをもとに、ライフサイクル各期における人々および母子の健康を支援し、必要に応じた看護が実践できる基礎的な能力を養う。				
実習目標	1. 生理的現象である妊娠・分娩・産褥の経過とそれに伴う母性の特徴を身体的・精神的・会的側面から理解し各期が正常に経過をするための基本的な援助ができる。 2. 新生児の特徴と生理的変化を理解し、新生児の正常な発育への援助ができる。 3. 妊娠・分娩・産褥の各期と新生児に起こりやすい異常徴候を理解し、対象が母親となる責任を自覚し自己の役割をよりよく果たせるよう、家族を含めた指導ができる。 4. 母子の生活を継続して援助するために、地域社会における連携の必要性和活動の実際を理解する。 5. 母性看護が次世代の健康と人類の繁栄という使命を担っていることを理解し、生命の尊厳や 人権、生命観、自己の母性観・父性観を育む。さらに、社会的背景が男女のライフサイクルおよび母子に与える影響を理解しそれらの諸問題に対応した看護が展望できる。				
実習内容	1. 周産期にある対象に必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化 1) 妊娠期 <ul style="list-style-type: none"> ①妊娠による母児の生理的変化と正常な経過の判断 ②妊娠や胎児の発育による生理的変化、周囲の人々の反応による対象の情緒への影響 ③対象の健康管理能力や育児能力の判断 ④妊婦の身体的苦痛、不快症状の観察 ⑤妊娠各期の保健指導の内容と方法 ⑥妊娠による家族への影響 2) 分娩期 <ul style="list-style-type: none"> ①分娩進行状態、胎児心拍による正常な分娩経過の判断 ②生理的変化の正常経過を阻害する因子 ③分娩経過の観察による予測される問題 ④胎盤に関する観察による胎盤機能の分析と予測される問題 3) 産褥期 <ul style="list-style-type: none"> ①産褥の生理的変化の理解と産褥経過の判断 ②褥婦の観察・分析による健康問題の明確化 ③産後の心理的变化 ④母親役割獲得過程と母子相互作用の判断 ⑤家族の健康管理能力、支援体制、心理的变化の判断 ⑥社会資源の活用方法の確認 ⑦継続看護の必要性の確認 4) 新生児(早期新生児) <ul style="list-style-type: none"> ①新生児の看護の必要性 ②新生児の生理的特徴と変化 2. 産褥期にある対象の健康上の問題に対する計画の立案 1) 産褥期 <ul style="list-style-type: none"> ①母子がより健康に生活するために必要な診断 ②褥婦の生理的変化に合わせた計画立案 ③褥婦の疲労回復への援助 ④対象の日常生活と関連づけた指導内容 3. 対象にあった方法での実践 1) 妊娠期 <ul style="list-style-type: none"> ①診察や検査目的の説明 ②産科の特殊性に配慮した診察の介助 2) 分娩期 <ul style="list-style-type: none"> ①娩出転機の観察 ②産婦の分娩時の援助 ③分娩の進行に伴う苦痛緩和 ④分娩経過に伴う報告 ⑤娩出後の母体の観察、胎盤計測 ⑥子宮復古を促進する援助 ⑦母子相互作用を高める援助 ⑧苦痛を受け止める言動 3) 産褥期 <ul style="list-style-type: none"> ①褥婦が正常な経過を辿るための援助 ②褥婦の身体的苦痛、不快症状を軽減するための援助 ③褥婦への適切な保健指導 ④母子相互作用を高める援助 4) 新生児(早期新生児) <ul style="list-style-type: none"> ①児に必要な検診・検査 ②児の全身観察 ③児の日常生活援助 ④児の啼泣 4. 根拠を持った評価 <ul style="list-style-type: none"> ①分娩時の看護の評価 ②褥婦の退行性変化の評価 ③褥婦の進行性変化の評価 ④母子相互作用をふまえた褥婦の育児技術の評価 5. 自主的・主体的な学習研究的態度 <ul style="list-style-type: none"> ①セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ ②生命の誕生 ③母子相互作用、愛着形成 ④母親役割獲得過程 ⑤児に対する愛おしむ態度 ⑥変化する家族機能 ⑦セクシュアリティの多様性 ⑧リプロダクティブヘルス/ライツを阻害する健康問題と課題 ⑨看護のあり方を考える姿勢 6. 看護観の形成 <ul style="list-style-type: none"> ①新生児の保護 ②生命の尊さと生命の継続性 ③母性の強さや逞しさ、対象に対する尊敬の念 ④児の誕生に対する喜び ⑤親への感謝の気持ち ⑥育児行動による母親の愛情 ⑦セクシュアリティと人権 				

専門分野Ⅱ

科目名	精神看護学実習			講師名・実務経験	佐野なつめ・専任教員
講義時期	2年後期 ～3年全期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90時間)
		講義方法	実習		
実習方法	精神科病棟にて1名の患者を受持ち看護を展開する。 地域活動支援センターにて見学実習を行う。				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	精神的な疾患や障害をもつ人の健康回復過程における援助活動を通し、適切な援助を行うための基礎的な能力を習得する。				
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神的な疾患や障害をもつ対象の理解を深め、健康上の問題を解決するための基礎的な看護展開ができる。 2. 精神的な疾患や障害をもつ対象との相互作用や自己の対人関係について認識し、看護者としての共感的態度および倫理に基づいた行動ができる能力を養う。 3. 精神疾患や障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、状況に応じた日常生活援助が行える。 4. 精神的な疾患や障害をもつ対象に安全な治療的環境が提供できる。 5. 家族、職場、地域社会が精神的な疾患や障害をもつ対象の社会復帰に及ぼす影響を理解し社会資源が活用できる基礎的な能力を養う。 				
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神的な疾患や障害をもつ対象の理解に必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病、発病の経過 ・ 精神症状と状態像—不安、うつ、躁、幻覚妄想、意欲減退など ・ 急性期、慢性期、回復期 ・ パーソナリティの発達、適応状態 ・ 治療方針 ・ 薬物療法の種類、効果と副作用 ・ 電気けいれん療法 ・ 精神療法（心理療法）、作業療法、レクリエーション療法など ・ 精神症状が日常生活に及ぼす影響について ・ 移動、食事、排泄、清潔、身だしなみ、身辺整理 ・ 意志の疎通、対人関係、活動への参加状況等 ・ 精神的変調や治療が安全面に及ぼす影響と安全対策 ・ 病棟構造—開放病棟と閉鎖病棟、保護室 ・ 生活環境—日課、外出、外泊、面会など ・ 事故防止—自殺、暴行・傷害、離院、火災 ・ 社会復帰に対する対象や家族の期待、社会的資源の活用状況 ・ 対象の現在の精神症状 2. 精神的な疾患や障害をもつ対象の健康上の問題に対する計画の立案 3. 精神的な疾患や障害をもつ対象、家族にあった方法での実践 4. 精神的な疾患や障害をもつ対象、家族の看護実践を根拠をもち評価する 5. 精神的な疾患や障害をもつ対象、家族について理解を深める 				

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学実習Ⅰ(急性期)			講師名・実務経験	専任教員全員
講義時期	2年前期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
	～後期	講義方法	実習		
実習方法	病棟実習;成人期にある周手術期、もしくは急性症状を持つ患者を受け持ち、看護過程を展開する。原則として、術前・術後の看護を学習する				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	1. 変化する社会的役割や責任を果たしながら個々の信念、価値観を確立していく青年期・壮年期の対象を理解し、ストレスの増強や生活習慣病など様々な健康上の諸問題に応じた看護を実践できる能力を養う				
実習目標	1. 病状の変化が激しい時期にある対象に対し、対象の持つ自然治癒力にはたらきかけながら生理的機能の恒常性の維持、苦痛の緩和、機器に対する情緒的安定、合併症への予防的援助ができる。 2. 疾病や手術により危機的状況にある対象や家族の心理を理解し、支援できる。				
実習内容	1. 急性症状を持つ対象の援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 急性症状の病態と現在の状態の観察と分析 2) 身体的症状・治療が精神状態や日常生活に及ぼす影響の分析と二次的障害の予測 3) 日々変化する状態や予後に対する対象および家族の心理状態を踏まえた分析 2. 急性期にある対象の健康上の問題に対する計画の立案 3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践 <ul style="list-style-type: none"> 1) 急性症状を引き起こした対象の全身状態の観察 2) 苦痛の緩和への援助 3) 術後の離床への援助 4) 急性症状に対する検査、処置に伴う援助 5) 生体機能を整えるための援助 6) 急性状態の中での生活者の視点を持った生活援助 7) 急性期にある対象の精神的安定を図る援助 4. 急性状態の病態を踏まえた全身状態の評価 5. 急性期にある対象の家族の心理状態の観察				

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学実習Ⅱ(慢性期)		講師名・実務経験	専任教員全員
講義時期	2年前期	実習場所	病棟	単位・時間数
		講義方法	実習	
実習方法	内科・回復期病棟にて患者を受持ちゴードンの看護過程の展開を用いた看護実践。			
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する			
実習目的	変化する社会的役割や責任を果たしながら個々の新年、価値観を確立していく対象を理解し、ストレスの増強や生活習慣病など様々な健康上の諸問題に応じた看護を実践できる能力を養う。			
実習目標	<p>不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ対象の健康上の問題と生活への影響を理解できる。対象やその家族に対して、疾病や生活様式変更の受容、自己管理能力の維持や拡大への援助ができる。</p> <p>対象に対して、疾病や障害、生活様式変更の受容、日常生活動作の自立と生活の質の維持や拡大、社会参加に向けての援助ができる。</p>			
実習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 内科的疾患を持つ対象の必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化 <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病や障害による身体的影響を自覚症状、検査所見、診察所見から観察・分析する 2) 対象を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響と、生活様式が疾病や障害に与える影響について観察・分析する 3) 疾病や障害が対象の家族や社会的役割に与える影響と、社会的役割が疾病や障害に与える影響について観察・分析する 4) 対象の心理的反応や知識・認知力の程度から自己管理能力を分析する 5) 対象の反応から疾病や障害への受容段階について観察・分析する 2. 内科的疾患を持つ対象の健康上の問題に対する計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の望む姿を明確にする 2) 症状に伴う苦痛を緩和するための計画を立案する 3) 症状の悪化、合併症予防への計画を立案する 4) 回復の促進や健康の保持増進に向けた計画を立案する 5) 対象の心理状態・生活様式を踏まえた教育方法を立案する 3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 症状に伴う苦痛の緩和、症状の悪化、合併症予防への援助を行う 2) 回復の促進に向けた治療やリハビリに伴う援助を行う 3) 対象の自己管理能力や生活様式を踏まえた健康の保持増進への教育を実践する 4) 対象に合った安全・安楽な援助を行う 4. 根拠をもった評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の症状や反応から看護を評価する 2) 対象の日常生活動作や生活行動に着目し、対象の変化を評価する 3) 評価の内容を目標や計画へフィードバックする 4) 看護の実践と評価を要約して表現する 5. 自主的・主体的学習、研究的態度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象を尊重し、思いを寄せた関わりをする 2) 対象に関心を寄せ、探求心を持って学習する 3) リーダーシップ、メンバーシップを発揮する 6. 自己の看護観の形成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 長期に渡り自己管理を必要とする対象の思いを尊重した看護を実践する 2) 対象の生活史を尊重し、生きがいを支える看護を実践する 			

専門分野Ⅱ

科目名	成人看護学実習Ⅲ			講師名・実務経験	福森茂樹・専任教員
講義時期	2年後期～3年全期	実習場所	病棟	単位・時間数	2単位(90)
	Ⅲ(2)～Ⅳ期	講義方法	実習		
実習方法	内科・回復期病棟にて患者を受け持ちゴードンの看護過程の展開を用いた看護実践。				
評価方法	看護実践、記録物、カンファレンス参加度を評価基準に基づき総合的に評価する				
実習目的	変化する社会的役割や責任を果たしながら個々の新年、価値観を確立していく対象を理解し、ストレスの増強や生活習慣病など様々な健康上の諸問題に応じた看護を実践できる能力を養う。				
実習目標	不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ対象の健康上の問題と生活への影響を理解し、対象やその家族の個別性に着目し、自己管理能力の維持や拡大への援助ができる。 対象やその家族に対して、疾病や障害、生活様式変更の受容、日常生活動作の自立と生活の質の維持や拡大、社会参加に向けての援助ができる。				
実習内容	<p>1. 内科的疾患を持つ対象の必要な情報収集、分析、健康上の問題の明確化</p> <p>1) 疾病や障害による身体的影響を自覚症状、検査所見、診察所見から観察・分析する</p> <p>2) 対象を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響と、生活様式が疾病や障害に与える影響について観察・分析する</p> <p>3) 疾病や障害が対象の家族や社会的役割に与える影響と、社会的役割が疾病や障害に与える影響について観察・分析する</p> <p>4) 対象の願いや生きがい、心理的反応、知識・認知力の程度から自己管理能力や健康管理能力を分析する</p> <p>5) 対象の反応から疾病や障害への受容段階について理論を踏まえて観察・分析する</p> <p>2. 内科的疾患を持つ対象の健康上の問題に対する計画の立案</p> <p>1) 対象の望む姿を明確にし、苦痛の緩和や合併症予防、回復の促進や健康の保持増進に向けた計画を立案する</p> <p>3) 対象の心理状態・生活様式を踏まえて、患者を擁護できる教育方法を立案する</p> <p>4) 対象の生活背景や家族に合った教育方法を立案する</p> <p>3. 計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践</p> <p>1) 対象の苦痛の緩和、合併症予防への援助、回復の促進に向けた治療やリハビリに伴う援助を行う</p> <p>2) 対象の自己管理能力や生活様式を踏まえた健康の保持増進への教育を実践</p> <p>3) 対象に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う</p> <p>4) 多職種と連携し、対象を支えるチームの一員として援助を行う</p> <p>4. 根拠をもった評価</p> <p>1) 対象の症状や心理状態の変化から看護を評価する</p> <p>2) 対象の日常生活動作や生活行動に着目し、発達段階を踏まえて対象の変化を評価する</p> <p>3) 指導中、指導後の反応から受容段階の変化を評価する</p> <p>4) 評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する</p> <p>5) 看護の実践と評価を要約して表現する</p> <p>5. 自主的・主体的学習、研究的態度</p> <p>1) 対象を尊重し、思いを寄せた関わりをする</p> <p>2) 対象に関心を寄せ、探求心を持って学習し自己の課題を明確化する</p> <p>3) リーダーシップ、メンバーシップを発揮する</p> <p>6. 自己の看護観の形成</p> <p>1) 長期に渡り自己管理を必要とする対象の思いを尊重した看護を実践する</p> <p>2) 対象の生活史を尊重し、生きがいを支える看護を実践する</p> <p>3) 自身の看護観をカンファレンスや所感の中で表現する</p>				